

2025 年 5 月 30 日

The Emerging Markets Weekly

ドル売りは一巡しつつあるが、総じて小幅な動きに

新興国市場:先週末 23 日のアジア時間は米国の財政悪化懸念が重しとなりドルが軟化、新興国通貨は総じて堅調。KRW は前日比+1.2%、MYR や INR も上昇した。欧米時間、トランプ米大統領が EU 向け関税やスマートフォン関税に言及したことで、トランプ関税への懸念が再燃したことを受けて値を伸ばした。BRL が前日比+1.1%、ZAR も買われた。週初 26 日、トランプ大統領が 23 日に発表していた EU に対する 50%の関税の発動日延期を発表したが、方向感なく小幅な値動きとなった。TWD が小幅上昇する一方、KRW は軟調。欧米時間は米国と英国が休場だったため商い薄のなか全体として動意の薄い展開。RUB や BRL が軟調。27 日アジア時間、本邦財務省が国債発行額に関するアンケートを送付との報道を受け、本邦金利の大幅低下による円安圧力がかかったほか、米国売りの緩和にもつながるとの見方から米通貨、債券、株のトリプル高となったことで下落。MYR や KRW が売られた。欧米時間もその流れが継続し、米 5 月消費者信頼感指数が市場予想を上振れたことでさらに下押しされた。RUB が値を下げ、BRL は上昇した。28 日アジア時間は総じて小幅な値動きにとどまった。欧米時間、FOMC 議事要旨が公表されるも反応は限定的。ドルが反発地合いのなか、概ね軟調。BRL や MXN の下落が目立った。29 日アジア時間、米国際貿易裁判は国際緊急経済権限法 (IEEPA) に基づくトランプ関税を違法と判決したことを受けてドルが反発、大半が下押された。THB や PHP が下落。欧米時間、トランプ政権が連邦最高裁まで争う可能性が高いこと、トランプ大統領の利下げ要求などを背景にドルが反落、上昇に転じた。RUB は前日比+3.5%、ZAR や BRL も値を伸ばした。

アジア:23 日発表のシンガポール 4 月消費者物価指数 (CPI) は前年比+0.9%と前月から横ばい、市場予想を僅かに上回った。同日、フィリピン中央銀行 (BSP) のレモロナ総裁は米国債格下げを受け、外貨準備運用における米国債の保有縮小を検討していることを明らかにした。27 日発表の韓国 5 月消費者信頼感 101.8 と昨年 10 月の水準に回復。改善・悪化の分け目となる 100 を上回ったのは 2024 年 11 月以来となった。韓国銀行 (BOK、中央銀行) は 29 日に政策金利を▲25bp 引き下げ 2.50%とすることを決定。BOK は景気動向を注視しつつ、物価をインフレ目標に収束させるために追加利下げを決定した。

中東欧・アフリカ:南アフリカ準備銀行 (SARB、中央銀行) は 29 日に政策金利を▲25bp 引き下げ 7.25%とすることを決定。SARB はインフレ見通し (2025 年 +3.6%から+3.2%、2026 年+4.5%から+4.2%、2027 年+4.5%から+4.4%) を下方修正し、先行きの金融政策に関しては言及を避けた。

ラテンアメリカ:27 日公表のブラジル 5 月前半の消費者物価指数 (IPCA) は前月比+0.36%と市場予想を下振れた。この結果を受けてブラジル中央銀行 (BCB) が利下げサイクルを停止するとの観測が高まり、BRL は上昇した。

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(フィリピン)

中銀総裁による米国債保有縮小検討発言を受けて

国際為替部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

5月23日、フィリピン中央銀行(BSP)のレモロナ総裁は米国価格下げを受け、外貨準備運用における米国債の保有縮小を検討していることを明らかにした。ブルームバーグは英語版の記事に続いて日本語記事もタイムリーに出しており、報道のスピード感からは上記発言の重要性の高さが感じ取れる。為替市場全体において「ドル離れ」が一種のテーマになる中で、このような反応も無理はないだろう。

フィリピンの外貨準備運用についてみていくと、外貨建て証券の残高は2000年代半ば以降大きく積み上げられており、4月末時点でそれは約780億ドルに上る(図表1)。詳細な内訳は統計上の制約で確認できないが、大部分がドル建て、しかも米国債と一般的に報じられている。

次に、発行体である米国側から、米国債保有主体に占めるフィリピンの存在感を確認しよう。5月16日に公表された対米証券投資統計(TIC)をもとに、ASEAN各国の米国債保有残高をみると、タイほどの規模はないにしても、フィリピンの米国債保有残高は相対的に大きいことがわかる(図表2)。フィリピン一国の行動で非連続的な変化が思えるとは思えないが、米国債保有縮小が現実のものとなり、それが各国に広がった場合、影響は甚大なものとなる。当座のところ、上記発言に対し米政権が反応を示すかどうか注視したい。

これは、範囲をアジアに拡大するとより鮮明に見えてくる。過去の『みずほマーケット・トピック』(*)でも論じた通り、グローバルな外貨準備においてアジアの存在感は非常に大きい。それはTICからも明らかであり、中国による売却が影響してか近年低下傾向にはあるものの、それでも海外保有の40%以上をアジアが占めている(図表3)。米国債の安定消化の観点から、アジア諸国に米国債離れが広がることは、ほぼ間違いなく致命傷になる。

ただし、過剰に反応するのは適切とも言えない。レモロナ総裁の発言を細かく見ていけば、米国債が今後もフィリピンの外貨準備において重要な役割を果たすとの見方も同時に示している。その上で、「ドルの安全資産性は時間とともに低下する可能性があるが、それはゆっくりとしたプロセスだ」「ドルは依然ナンバーワンの通貨だ」「ドルの優位性は永続的なものではない」とも述べている。この発言は、多くの市場参加者が首肯するだろう。

要するに、ドルが圧倒的な基軸通貨であり続け、尚且つ米国債が主要な準備資産であり続けているのは、米国がそれらの地位を維持するよう努力すると信頼されてきたからである。当然その地位には様々な責務もついて回るが、米トランプ政権が基軸通貨国としての法外な特権を無視し、一方的な被害者意識に取りつかれた政策を続けるのであれば、ドルの基軸通貨性も米国債の安全資産性も当然棄損されることになる。

(*)詳細は、2025年5月7日発行のみずほマーケット・トピック、『逆「アジア通貨危機」観測の考え方』をご覧ください。

図表 1: フィリピン外貨準備における外貨建て証券の残高



出所: フィリピン中央銀行、Macrobond、みずほ銀行

図表 2: 各国の米国債保有残高



出所: 米財務省、Macrobond、みずほ銀行

図表 3: 米国債の海外保有残高に占めるアジアの割合



出所: 米財務省、Macrobond、みずほ銀行

市場概観(韓国)

BOK は追加利下げを決定、金融政策は景気支援色が強まる

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

韓国銀行(中央銀行、BOK)は 29 日、金融通貨委員会を開催し、政策金利(7 日物レポ金利)を従来の 2.75%から 2.50%へ引き下げた(図表 1)。利下げは委員会メンバー 6 人の全会一致での決定であった。BOK は昨年利下げ路線に転換してから累計で 3 度政策金利を引き下げている。なお、ブルームバーグの事前予想では▲25bp の利下げが優勢であった。

声明文では世界経済の成長について、米国の関税政策の影響を筆頭に不確実性が高まっていることに言及した。また、今回合合では経済物価見通しが更新されており、韓国経済についても前回 2 月会合の時点で前年比+1.5%としていた成長予測は同+0.8%にまとまった幅で下方修正された(図表 2)。直近公表の 25 年 1~3 月期実質 GDP 成長率を見ても、前年同期比▲0.1%と 2020 年以来となるマイナス成長を記録するなど、景気減速色を強めている(図表 3)。詳細項目を見ても内・外需とも力強さを欠く内容で、雇用など一部底堅さが残るデータはあるものの、景気の押し上げ効果は限定的との見方を示している。図表 4 に目を向けても、貿易黒字を中心に昨年対比で悪化する見込みで、先行きの対米貿易交渉と関税強化を織り込んだものと見受けられる。交渉自体は未だ合意には達していないものの、韓国の輸出環境は従来よりも厳しくなるといった見解は一貫している。

物価動向については、物価目標である 2%近辺を安定的に推移するといった従来の予想を据え置いた。直近の 4 月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.1%、農産品や石油類を除いたコア CPI は同+2.2%となった(図表 5)。目先のインフレ要因は食料品やサービス価格の上昇であるが、これらは内需の鈍化や資源価格の軟化の影響で打ち消されると予想しており、インフレは緩やかに下降していくと総括している。

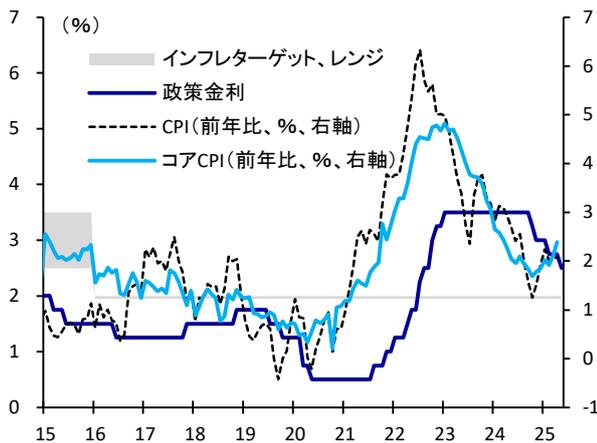
かかる中、BOK は景気動向を注視しつつ、物価をインフレ目標に収束させるために追加利下げを決定した。今回の声明文では、経済成長見通しが大きく引き下げられたことに付随してハト派な内容が目立っている。今後の政策指針については、「利下げ姿勢を維持して、景気減速リスクを軽減させる」、「国内外の環境を注視しながら、利下げのタイミングやペースを検討する」といった文言に象徴される通り、今後複数回の利下げを示唆するような内容であった。李 BOK 総裁も会見でも、6 人のメンバーのうち 4 人が 3 か月以内の追加利下げを視野に入れていると述べた。以上の点を踏まえ、BOK の政策運営は景気支援色を強めていくと予想される。

足許の KRW 相場が持ち直していることも BOK の利下げを後押ししたと思われる。5 月の KRW 対ドルで約 6.1%上昇しており、一時昨年 10 月以来の水準まで値を伸ばした(図表 6)。韓国経済の見通しは決して強くないものの、一連の上昇は米国との通商交渉の過程で KRW 相場の切り上げが議論されるという思惑が広がったことが大きい。現時点では、米国の通商政策の動向や韓国大統領選挙を間近に控える中で複数の不確実性が共存しており、方向感を探る相場が継続している。本欄では米国の相互関税の発動延期が終了する 7 月上旬まではこうした時間帯が続くと予想する。

今回の BOK の情報発信はかなりハト派であったが、ある程度市場も織り込んでいたこともあり、相場への影響は限定的だった印象を受ける。KRW の直近の動きを見て

も、金利・需給などのファンダメンタルズの観点よりも対米貿易交渉の行方や混乱が続く国内政治動向などが強い相場要因となっているように見受けられる。5月に見られたヘッドライン先行でのKRW高は憶測の域を出ず、持続性を持つとは考えにくい。大統領選挙後の次期政権に対する期待感に起因する押し目買いには警戒したいところだ。

図表 1: 政策金利とインフレ率



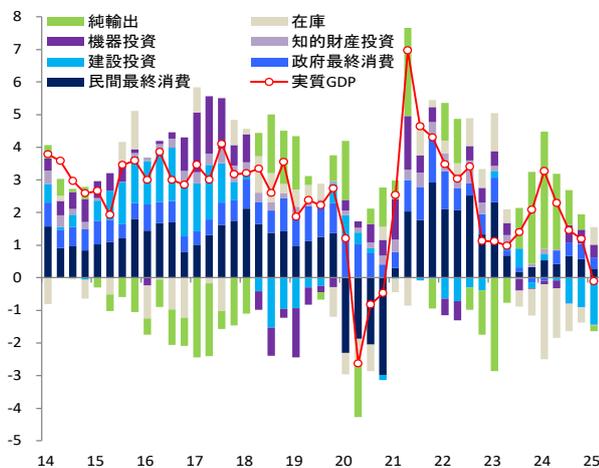
出所: BOK、CEIC、みずほ銀行

図表 2: BOKによる経済・物価見通し①

	2024年 (前年比)	2025年		2026年	
		通年	上半期	下半期	通年
実質GDP成長率	2.0%	0.1%	1.4%	0.8%	1.6%
民間最終消費支出	1.1%	0.8%	1.4%	1.1%	1.6%
建設投資	-3.0%	-11.3%	-1.1%	-6.1%	2.8%
設備投資	1.6%	4.9%	-1.0%	1.8%	1.0%
知的財産投資	0.7%	1.4%	4.8%	3.2%	2.5%
輸出(財)	6.3%	-0.1%	0.0%	-0.1%	0.7%
輸入(財)	1.2%	0.8%	-0.3%	0.2%	1.5%
消費者物価指数(CPI)	2.3%	2.1%	1.8%	1.9%	1.8%

出所: BOK、みずほ銀行

図表 3: 実質 GDP 成長率の推移(前年同期比%、%ポイント)



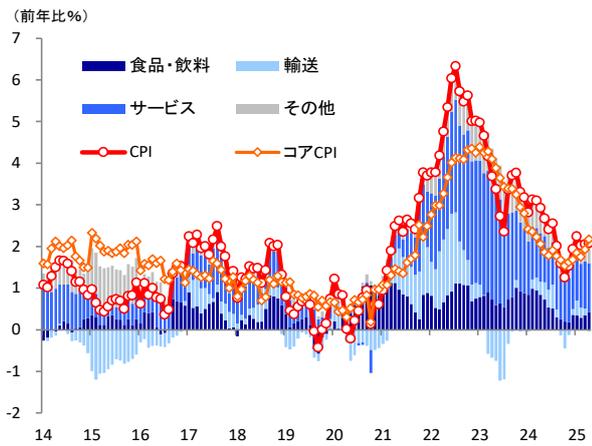
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: BOKによる経済・物価見通し②

	2024年 (10億ドル)	2025年		2026年	
		通年	上半期	下半期	通年
経常収支	99.0	37.8	44.1	82.0	72.0
(2月時点)		28.5	46.5	75.0	70.0
貿易収支(財)	100.1	41.1	43.4	84.6	79.1
(2月時点)		35.1	45.0	80.1	78.1
サービス収支	-23.7	-12.4	-13.3	-25.6	-27.6
(2月時点)		-12.0	-12.7	-24.6	-26.6
所得収支	22.6	9.1	13.9	23.0	20.5
(2月時点)		5.4	14.2	19.6	18.5

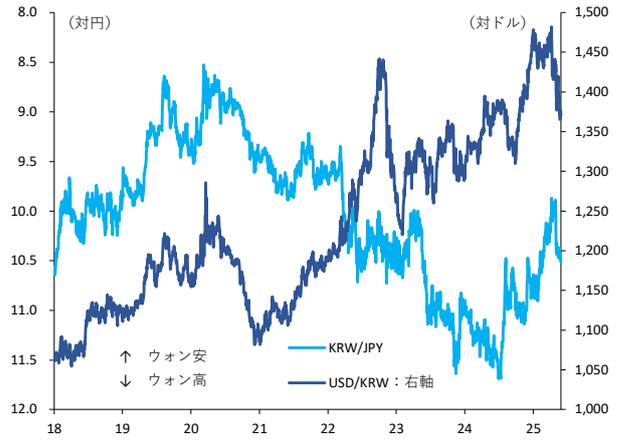
出所: BOK、みずほ銀行

図表 5: 消費者物価指数の動向(前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 6: KRW 相場の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(メキシコ)

Banxico は成長率見通しを大幅に下方修正

国際為替部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

サマリー

メキシコ中央銀行(Banxico)は5月28日に四半期報告書を、翌29日には5月金融政策決定会合の議事要旨を公表した。四半期報告書では成長率見通しの大幅な下方修正が目立ち、議事要旨は▲50bpの利下げ継続を支持する内容だった。ただし、一部のメンバーが利下げペース鈍化を視野に入れている様子も見て取れた。以上のようなBanxicoの情報発信を踏まえれば、ペースに関しては議論があるが、年内は相応の規模の利下げが続くと考えるのが妥当だ。

成長率見通しの下方修正が目立つ四半期報告書

まずは四半期のインフレ報告書だ。なお、今回の報告書は、2025年1~3月期を対象としている。まず、今回の報告書の内容で最も注目を集めたのは、GDP成長率見通しの引き下げだろう。今回の見通しは、2025年~26年に関し、それぞれ+0.1%、+0.9%(前年比、以下同様)となっている(図表1)。前回2月時点と比較すると、2025年が▲0.5%ポイント、2026年が▲0.9%ポイントも下方修正されている。Banxicoはこの下方修正に関し、既に米関税に伴う悪影響がメキシコの内需を押し下げており、この流れが当面続くとの見通しを反映した、と述べている。実際、1~3月期のGDP成長率は前期から持ち直したものの、弱い伸びが続いている(図表2)。外需に関しても、Banxicoは関税賦課および米経済の失速見通しを受け、弱めの想定を置いている模様だ。

なお、インフレの見通しに関しては、5月15日開催の金融政策決定会合時点の予測から変化はない(図表3)。高水準の実質政策金利が続く中でも、サービス分野の粘着性は継続し、2026年の7~9月期にBanxicoの目標レンジ(前年比+3%±1%)の中心によろやく回帰するとの見通しだ。なお、インフレのリスクバランスが上向きに傾いている旨の判断にも変化がなかった。

次回の▲50bp利下げ継続を支持も、将来の利下げペース鈍化を示唆する5月会合議事要旨

続いて、5月会合議事要旨を確認しよう。過去の通貨ニュース(*)でも記載した通り、Banxicoは5月会合で▲50bp利下げを継続させたいと、先々の決定に関し声明文では、「同程度の調整」を検討する可能性がある」「引き締めスタンスは維持するものの、利下げサイクルの継続が可能になる」とし、▲50bp利下げの継続を示唆していた。

議事要旨では、多くの政策委員メンバーが関税賦課による不確実性の高まり、および経済下振れリスクの大きさを強調したことが目立った。そして、インフレ見通しが実現するという前提の上で、同様のペース(▲50bp)の利下げが行われる、という意見も見られた。半面、目先は50bpの利下げ継続が望ましいとしつつも、最終的には「漸進的な」対応が必要になる、との声も聞かれた。一部のメンバーは、既に利下げペースの鈍化を視野に入れているようだ。

以上より、次回6月会合でも▲50bp利下げが行われる可能性が濃厚だろう。確か

に、政策金利から1年先期待インフレ率を差し引いた短期実質政策金利は、Banxicoの想定する中立実質政策金利を大きく上回って推移している(図表4)。今後も利下げが継続すること自体には何の違和感もない。もっとも、インフレ見通しがなお厳しいこと、徐々に政策金利が中立水準のレンジに近づくことを考慮に入れば、2025年終盤以降は利下げペースの鈍化が視野に入る。筆者想定の実質政策金利パスは過去の通貨ニュース(*)から変化はなく、2025年末で7.00%、2026年6月末時点で6.50%と想定したい。

*詳細は、5月16日発行の通貨ニュース、『メキシコ:Banxicoは倍速利下げを継続』をご覧ください。

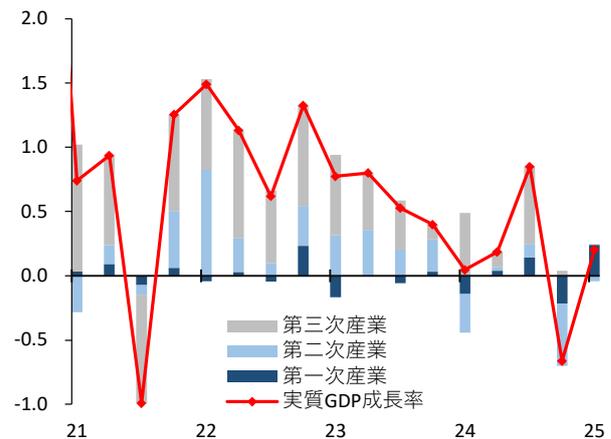
図表1: BanxicoのGDP成長率見通し

GDP成長率見通し				
		2024	2025	2026
2025年	5月時点	1.5%	0.1%	0.9%
	2月時点	1.5%	0.6%	1.8%
2024年	11月時点	1.8%	1.2%	1.8%
	8月時点	1.5%	1.2%	-
	5月時点	2.4%	1.5%	-
	2月時点	2.8%	1.5%	-

※前年比、%
※見通しの中央値を記載

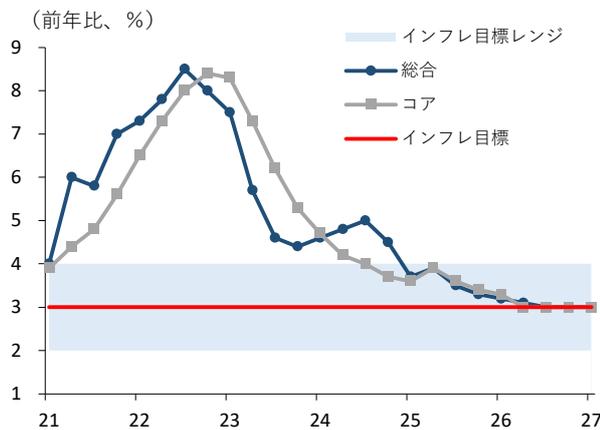
出所: Banxico、みずほ銀行

図表2: GDP成長率の実績(前期比%、%ポイント)



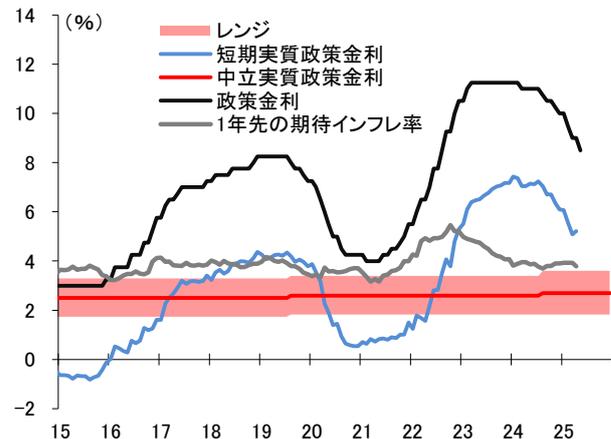
出所: Macrobond、みずほ銀行 ※季節調整済み、統計誤差は第三次産業に含めた

図表3: BanxicoのCPI見通し



出所: Macrobond、みずほ銀行

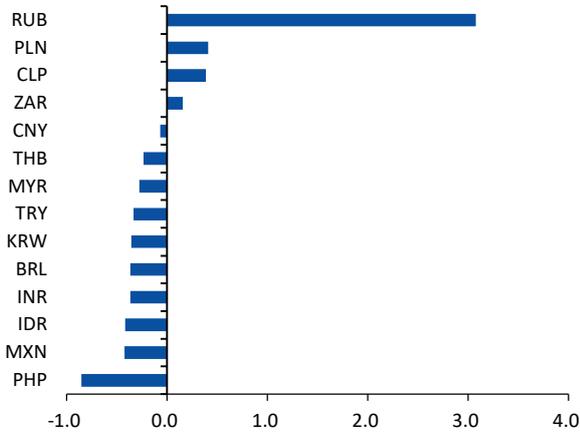
図表4: Banxicoの想定する中立実質政策金利



出所: Macrobond、みずほ銀行

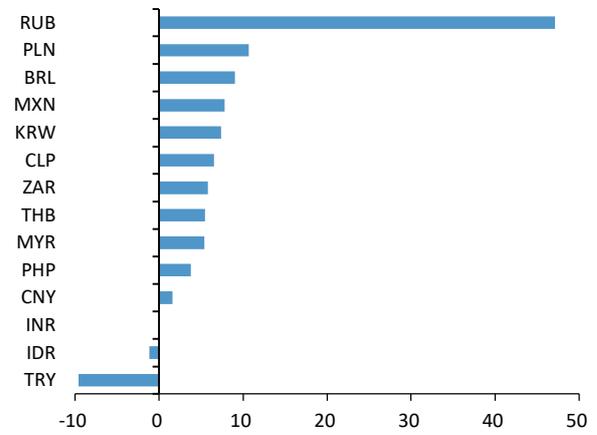
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



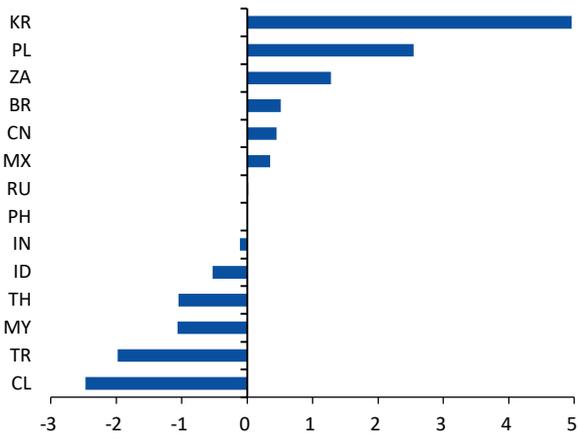
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



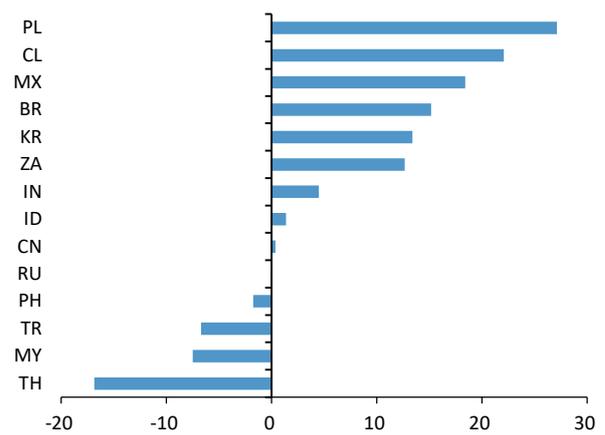
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



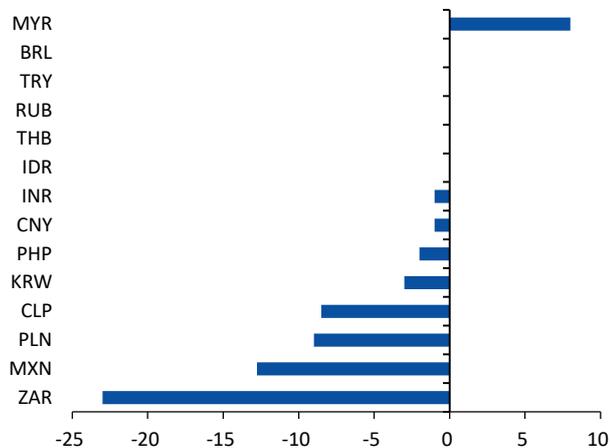
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

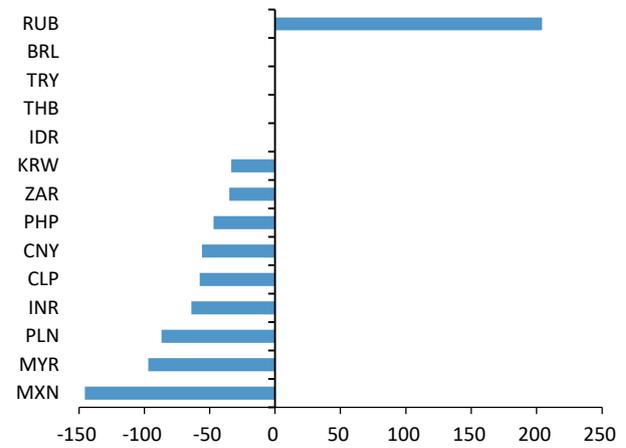
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

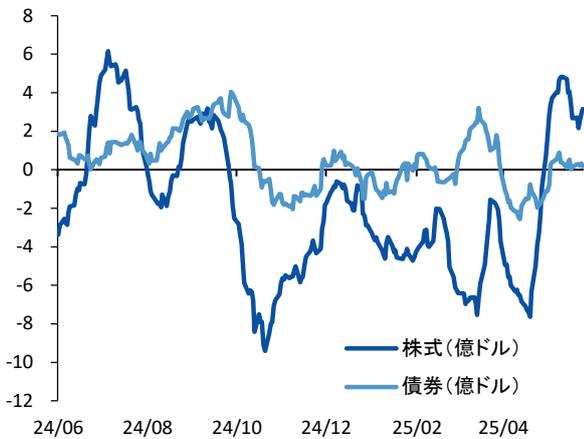


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

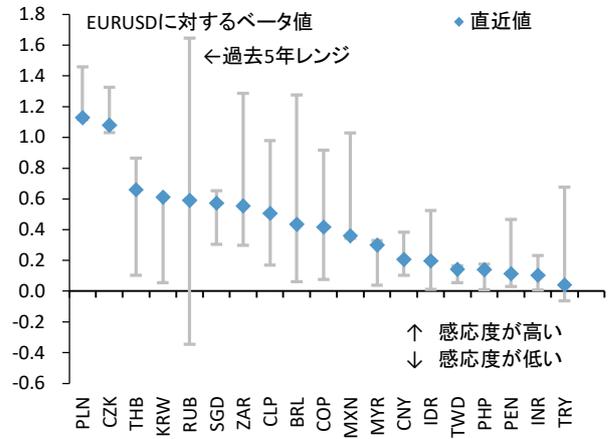
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



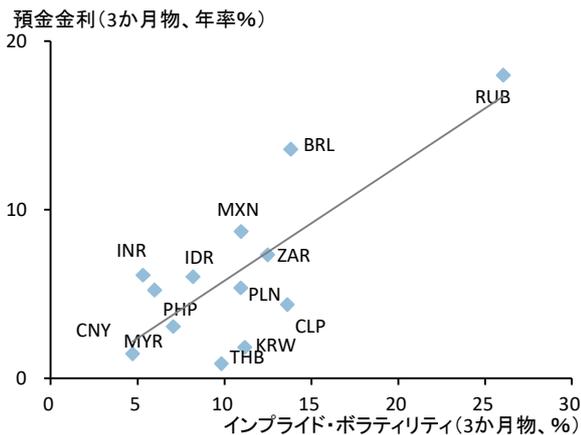
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



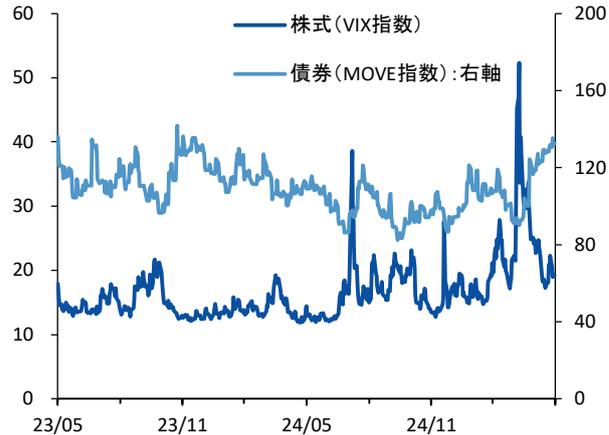
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



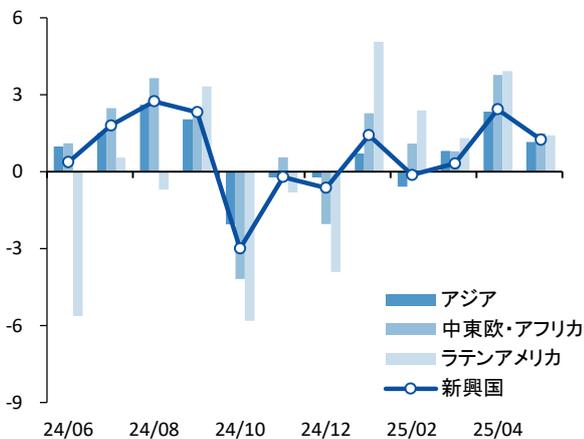
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



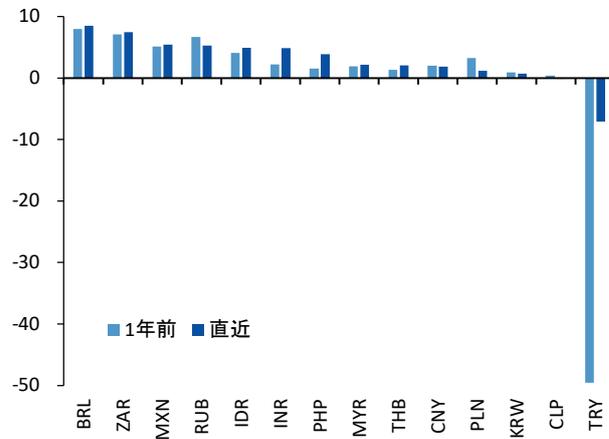
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
5月26日 (月)	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$800m	-\$3320m	\$973m	--
27日 (火)	韓国	消費者信頼感	--	101.8	93.8	--
27日 (火)	中国	工業企業利益(前年比)	--	3.0%	2.6%	--
28日 (水)	台湾	GDP(前年比)	5.4%	5.5%	5.4%	--
29日 (水)	インド	鉱工業生産(前年比)	1.0%	2.7%	3.0%	--
29日 (木)	韓国	BOK Base Rate	2.50%	2.50%	2.75%	--
30日 (金)	韓国	鉱工業生産(前年比)	4.0%	4.9%	5.3%	--
30日 (金)	フィリピン	貿易収支	-\$4233m	--	-\$4128m	--
30日 (金)	タイ	国際収支:経常収支	-\$200m	--	\$2328m	--
30日 (金)	インド	GDP(前年比)	6.8%	--	6.2%	--
31日 (土)	中国	製造業PMI	49.5	--	49.0	--
31日 (土)	中国	非製造業PMI	50.5	--	50.4	--
6月1日 (日)	韓国	貿易収支	\$4719m	--	\$4884m	\$4881m
2日 (月)	インドネシア	CPI(前年比)	--	--	2.0%	--
2日 (月)	インドネシア	貿易収支	\$2950m	--	\$4329m	\$4327m
2日 (月)	シンガポール	購買部景気指数	--	--	49.6	--
3日 (火)	中国	Caixin中国製造業PMI	--	--	50.4	--
4日 (水)	韓国	GDP(前年比)	--	--	-0.1%	--
4日 (水)	韓国	CPI(前年比)	--	--	2.1%	--
5日 (木)	韓国	国際収支:経常収支	--	--	\$9144.6m	--
5日 (木)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	--	--	1.4%	--
5日 (木)	中国	Caixin中国PMIサービス業	--	--	50.7	--
5日 (木)	シンガポール	小売売上高(前年比)	--	--	1.1%	--
5日 (木)	台湾	CPI(前年比)	--	--	2.0%	--
5日 (木)	タイ	CPI(前年比)	0.1%	--	-0.2%	--
6日 (金)	インド	RBI政策金利	--	--	6.00%	--
中東欧・アフリカ						
5月29日 (水)	ロシア	PPI 前年比	--	2.7%	5.9%	--
29日 (木)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	1.3%	1.5%	0.8%	--
29日 (木)	トルコ	貿易収支	-12.00b	-12.09b	-7.20b	--
29日 (木)	南ア	PPI 前年比	0.0%	0.5%	0.5%	--
29日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	7.25%	7.25%	7.50%	--
30日 (金)	トルコ	GDP(前年比)	2.3%	--	3.0%	--
30日 (金)	南ア	貿易収支(ラント)	17.2b	--	24.8b	--
6月3日 (火)	トルコ	CPI(前年比)	--	--	37.9%	--
3日 (火)	トルコ	PPI 前年比	--	--	22.5%	--
3日 (火)	南ア	GDP(前年比)	--	--	0.9%	--
5日 (木)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	--	--	2.2%	--
5日 (木)	南ア	経常収支(対GDP比)	--	--	-0.4%	--
6日 (金)	ロシア	主要金利	--	--	21.00%	--
ラテンアメリカ						
5月26日 (月)	ブラジル	経常収支	-\$1900m	-\$1347m	-\$2245m	--
27日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	5.5%	5.4%	5.5%	--
30日 (金)	ブラジル	純債務対GDP比	61.7%	--	61.6%	--
30日 (金)	ブラジル	GDP(前年比)	3.1%	--	3.6%	--
6月3日 (火)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	3.1%	--

注:2025年5月30日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2025年 1～4月(実績)	SPOT	2025年 6月	9月	12月	2026年 3月	6月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民幣 (CNY)	7.2164 ~ 7.3512	7.1861	7.38	7.23	7.12	7.14	7.11
香港ドル (HKD)	7.7531 ~ 7.7955	7.8408	7.76	7.75	7.76	7.77	7.78
インドルピー (INR)	84.470 ~ 87.950	85.518	86.2	85.2	86.2	85.6	84.3
インドネシアルピア (IDR)	16130 ~ 17224	16308	16560	16400	16500	16250	16000
韓国ウォン (KRW)	1413.35 ~ 1487.45	1371.15	1440	1420	1400	1390	1380
マレーシアリング (MYR)	4.3050 ~ 4.5185	4.2432	4.33	4.25	4.29	4.21	4.14
フィリピンペソ (PHP)	55.845 ~ 58.715	55.741	56.3	55.6	56.1	55.7	55.5
シンガポールドル (SGD)	1.3011 ~ 1.3751	1.2865	1.33	1.32	1.33	1.32	1.30
台湾ドル (TWD)	31.927 ~ 33.280	29.710	32.5	32.3	32.0	31.7	31.5
タイバーツ (THB)	33.04 ~ 34.98	32.57	33.5	32.6	33.4	32.8	32.5
ベトナムドン (VND)	25038 ~ 26125	26029	26200	26100	26200	26100	25800
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	78.1667 ~ 114.7788	77.1576	80.0	82.0	84.0	88.0	92.0
南アフリカランド (ZAR)	18.0018 ~ 19.9328	17.8057	18.4	18.2	18.6	18.8	19.0
トルコリラ (TRY)	35.2419 ~ 41.2972	39.2328	39.0	40.0	41.0	42.0	43.0
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	5.5934 ~ 6.2270	5.6672	5.80	5.75	5.85	5.90	5.95
メキシコペソ (MXN)	19.4707 ~ 21.2932	19.3153	19.8	20.4	20.2	20.0	19.8
対円							
エマージングアジア							
中国人民幣 (CNY)	19.145 ~ 21.666	20.037	19.38	19.92	20.51	20.31	20.39
香港ドル (HKD)	18.031 ~ 20.403	18.381	18.43	18.58	18.81	18.66	18.64
インドルピー (INR)	1.644 ~ 1.848	1.685	1.66	1.69	1.69	1.69	1.72
インドネシアルピア (100IDR)	0.830 ~ 0.981	0.884	0.864	0.878	0.885	0.892	0.906
韓国ウォン (100KRW)	9.749 ~ 10.916	10.511	9.93	10.14	10.43	10.43	10.51
マレーシアリング (MYR)	31.951 ~ 35.699	34.218	33.03	33.88	34.03	34.44	35.02
フィリピンペソ (PHP)	2.470 ~ 2.726	2.606	2.54	2.59	2.60	2.60	2.61
シンガポールドル (SGD)	107.08 ~ 116.09	112.02	107.52	109.51	110.11	110.02	111.37
台湾ドル (TWD)	4.310 ~ 4.843	4.880	4.40	4.46	4.56	4.57	4.60
タイバーツ (THB)	4.150 ~ 4.653	4.424	4.27	4.42	4.37	4.42	4.46
ベトナムドン (100VND)	0.5401 ~ 0.6253	0.5537	0.55	0.55	0.56	0.56	0.56
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.370 ~ 1.851	1.870	1.79	1.76	1.74	1.65	1.58
南アフリカランド (ZAR)	7.263 ~ 8.525	8.093	7.77	7.91	7.85	7.71	7.63
トルコリラ (TRY)	3.565 ~ 4.481	3.666	3.67	3.60	3.56	3.45	3.37
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	23.669 ~ 26.888	25.432	24.66	25.04	24.96	24.58	24.37
メキシコペソ (MXN)	6.845 ~ 7.790	7.461	7.22	7.06	7.23	7.25	7.32

注: 1. 実績の欄は2025年4月30日まで。SPOTは5月30日の7時5分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。